

カキの病害虫—2

人畜有害

木村 裕

カキノキには、チクチクと肌を刺すイラムシ（イラガ類の幼虫）がよく発生するのでそばに近寄るのを警戒されている方も多いことでしょう。その通り、この虫はよく発生します。葉の裏にじっと潜んでいるのに気づかずうっかり触れて痛い思いをします。

【イラガ類】

なまこ型の毛虫で、刺には毒あり、触れるとピリピリとした痛みが走ります。しかしこの痛みは数時間で治まりますので少し辛抱してくださいとの伝言を彼らから受けています。

同時に産まれた仲間たちは、仲良く集まり行儀よく並んで葉の裏面をかじりますので、初期の被害では数枚の葉が白っぽく透かしになります。このときに葉を切り取って処分すれば問題はないのですが、放置しておくともみな独立して樹全体に広がるので厄介です。



上：ヒメクロイラガ、 下：イラガ



由緒正しい正統のイラガはめったにお目にかかれません。最も多いのは青

っぱいアオイラガと黄色のヒメクロイラガです。いっとき大発生したが最近少なくなっているのがヒロヘリアオイラガです。

【マイマイガ】

黒っぽい毛虫で、背中に白い斑紋のように見える毛があります。毒はそれほど強くはありません。糸を出してゆらゆらとぶら下がることからブランコ毛虫とも言われています。成長すると小指くらいになり、赤、青、黄色などカラフルな毛でおめかしします。



【カキクダアザミウマ】

葉が葉巻きタバコのように縦に丸まることがあります。これは小さな肌色の虫（幼虫）がとりついて汁を吸ったためです。葉を開いて確認してください。ときには黒っぽい虫（成虫）がいることもあります。



【病害】葉に角張った褐色の斑紋を生じる落葉病がよく発生しますが無視しても大丈夫でしょう。また、葉に白い粉のようなものがつくうどんこ病も発生することがあります。